

# 第7章 推進体制と進行管理

## 1. 計画の進捗管理方法

### 1.1 推進体制

#### 1.1.1 各主体の役割と連携

二次戦略が目指している生きものと自然のつながりを大切にしていくための取り組みは、行政（市）をはじめ市民、市民団体、事業者など多様な主体と連携・協力し、進めていかなければなりません。各主体は、それぞれの役割を果たすとともに、一体となった協働が求められます。（p78 図 7-1 参照）

#### 1) 市川市の役割

市は、市域の生物多様性に関する調査研究及び資料・情報の収集整理、保存活用を行い、二次戦略に掲げる自然と文化、そして人をつなぐ施策を総合的・計画的に展開していきます。また、多様な主体を支援し、共に協働して取り組むための仕組みづくりを推進します。

#### 2) 市民の役割

市民は、生きものと自然のつながりを大切にいくため、日常生活において地産地消や季節の食材を利用するなど、生物多様性に配慮した消費活動を行うとともに、各公園や緑地のルールを守り、身近な生きものたちを温かく見守っていきます。また、市、国や県の実施する生物多様性に関する取り組みに協力、参画するとともに、地域における保全・再生活動の担い手として期待されます。



### 3) 市民団体の役割

市民団体は、長年の経験を活かし地域における保全・再生活動やトラスト運動等の中心的役割が期待されます。また、地域の生物多様性の状況を熟知している主体としての立場から、主体的な活動を推進していくために必要な将来への提案も期待されます。



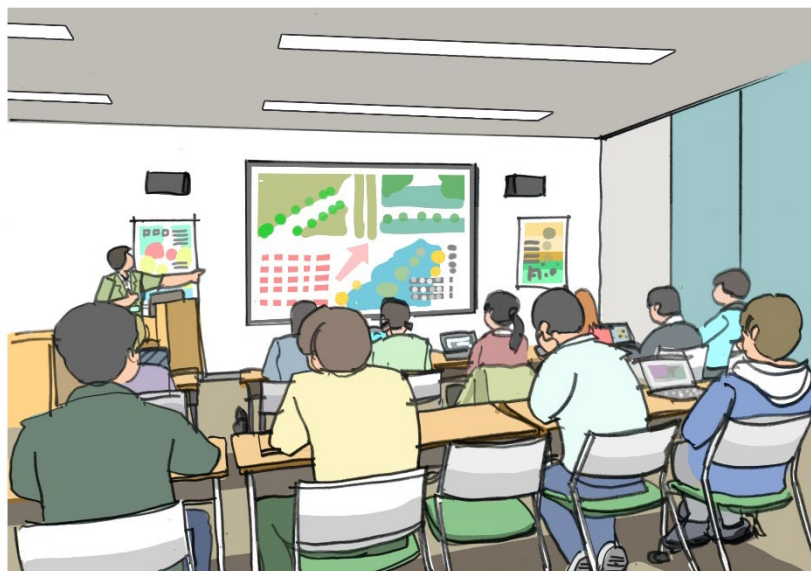
### 4) 事業者の役割

事業者は、法令等を遵守し、生物多様性に配慮した土地利用や開発を行うなど、地域及び世界の生物多様性に負荷の少ない事業活動の展開が重要視されます。また、社会貢献活動の一環として、里山・里海の保全活動への参加等企業としての力を生物多様性の保全・再生につなげる活動が期待されます。



## 5) 教育機関の役割

小・中学校や高等学校などの教育機関は、市が実施する環境学習事業と連携して環境教育を推進していくことが期待されます。大学や博物館さらに自然や生物にかかわる研究機関については、その高度な専門的知見や豊富な資料・情報を活かして、各主体に協力、支援、助言などを行うことが期待されます。



## 6) 関係機関との連携

市川市には、江戸川や三番瀬など他の自治体にまたがり、国や千葉県が管理している区域があります。市域を越えた広域的な課題については、国家戦略や県戦略等を参考としながら、国、県の機関、近隣市等と連携した取り組みを進めていくことが望まれます。そこで、生物多様性センター等の関係機関や近隣市と連携を図っています。また、生きものと自然のつながりを大切にしていくためには、自然・社会環境に関する広範な知識・見解が求められることから、大学などの研究機関との連携を推進していきます。

## 1.1.2 推進体制

### 1) 市民・市民団体・事業者との推進体制

生物多様性の保全と持続可能な利用を進め、生きものと自然のつながりを大切にしていけるための取り組みは、多様な主体との協働による推進が求められます。

そこで、生物多様性に配慮した市民生活や事業活動の普及啓発等を進めていく中で、自然環境のモニタリング調査に参加していただく主体を「生物多様性モニタリング調査員」に位置付けるとともに、市民や市民団体、事業者、大学などの研究機関等と連携を図っていきます。

### 2) 庁内の推進体制

二次戦略に基づいて市が実施していく行政施策は、市行政の様々な分野に関連しています。生物多様性をキーワードとして、各関係部署の実施する様々な施策をネットワーク化するため、関係各課による「生物多様性いちかわ戦略推進会議」を設置しています。（p78 図 7-1 参照）

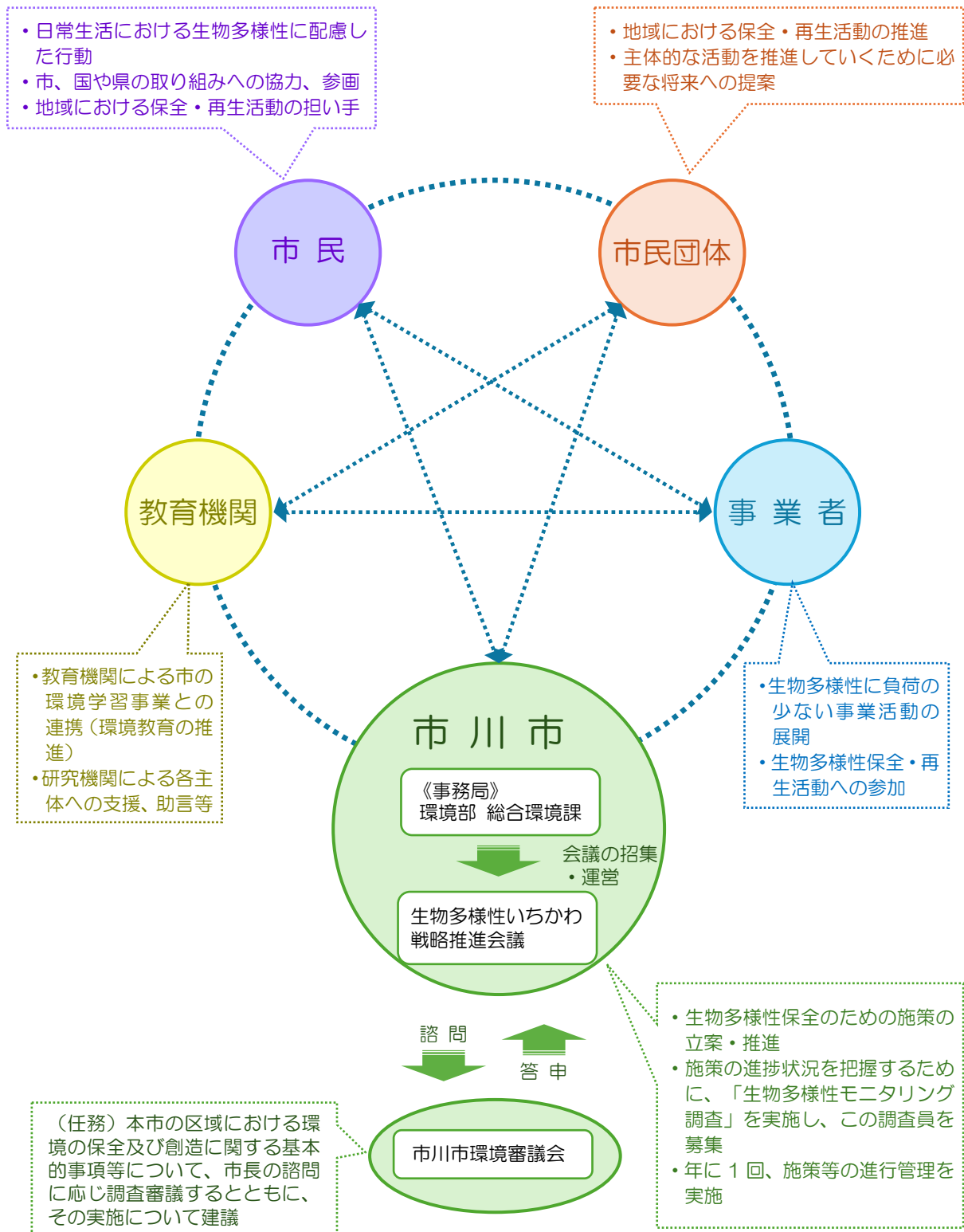


図 7-1 二次戦略の推進体制

## 1.2 進行管理

### 1.2.1 進行管理の体制

二次戦略の進行管理については、前記の推進体制の中で継続的に検証しています。また、生物多様性の状況を検証するため、生物多様性モニタリング調査を様々な主体との協働により実施しており、調査結果については、いちかわ生きものマップ、市川市鳥類モニタリング調査報告書として市公式 Web サイトで公表しています。モニタリング調査では、指標となる生物種を選定し、その確認数等の経年的な変化を把握することにより、生物多様性の状態を把握しています。

### 1.2.2 進行管理の手法

二次戦略の進行管理については PDCA サイクルを基本とします。

PDCA サイクルは、[**P**lan (計画)、**D**o (実行)、**C**heck (点検・評価)、**A**ction (見直し・改善)]を循環させるものです。(図 7-2 参照)

2030 年の短期目標を Check (点検・評価) すると同時に、それまでの施策の効果について Action (見直し・改善) を行います。そして、それらの結果を反映させて 2050 年の長期目標のための施策について Plan (計画) し、新たな Do (実行) につなげていきます。

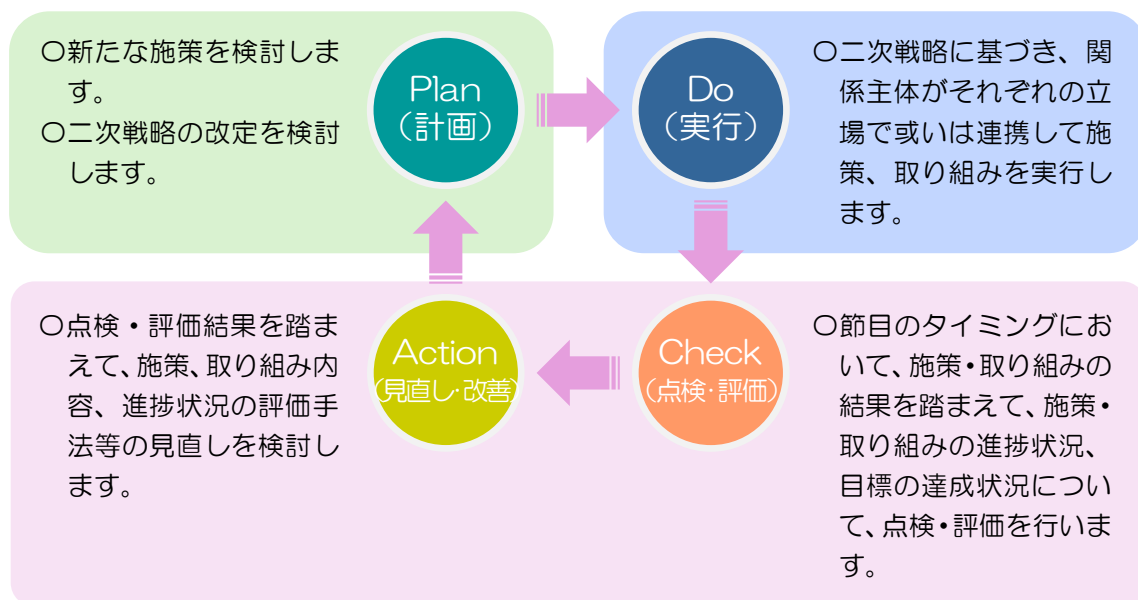


図 7-2 PDCAサイクル

